

5歳の笑顔が、未来をつくる。



© 小林正典

5歳の笑顔が、未来をつくる。



会員大募集！ CYRは、パートナーとして活動を支えてくださる方を随時募集しています。年会費：10,000円(学生 3,000円 / 団体 30,000円)

ご寄付は税控除の対象になります！ 幼い難民を考える会は、2006年3月1日より認定NPO法人に認定されました。これは、組織運営・事業活動が適正であるとして国税庁が認定するものです。認定NPO法人に対するご寄付は、相続財産のご寄付を含め、税制優遇措置を受けられます。



年次報告書2012
発行日：2012年6月
発行人：深水正勝

■ 東京事務局
〒112-0013
東京都文京区音羽1-10-4 池田ビル3F
TEL: 03-3943-6971
FAX: 03-3943-6973
Email: info@cyr.or.jp
URL: http://www.cyr.or.jp

幼い難民を考える会（CYR）は、難民となったカンボジアの子どもたちがけんめいに生きようとする姿に触発され、1980年に設立されました。子どもたちが心身ともに健全に成長し、その親たちが人間らしい生活環境のもとで自立できることが、難民を出さない平和な社会につながることを信じ、復興をめざすカンボジアで活動を続けています。

■ プノンペン事務所
CYK(Caring for Young Khmer)
P.O.BOX No12 Phnom Penh, Cambodia
TEL: +855-23-210849
Email: CYKPP@online.com.kh
URL: http://www.moolmit.com/demo/cyk/



© 小林 正典



© 小林 正典

保育を通じて、子どもたちの すこやかな成長をはぐくむ (カンボジア保育事業)

厳しい状況にある幼い子どもたちが、安心して過ごせる場所をつくり広めていく、そして豊かな心をはぐくむ—それが私たちの使命。そのために給食の提供、保育者の育成、教材の開発などを、地域の人たちと一緒にしています。

➤P3



伝統織物の技術を伝え 女性の自立を支える (カンボジア織物事業)

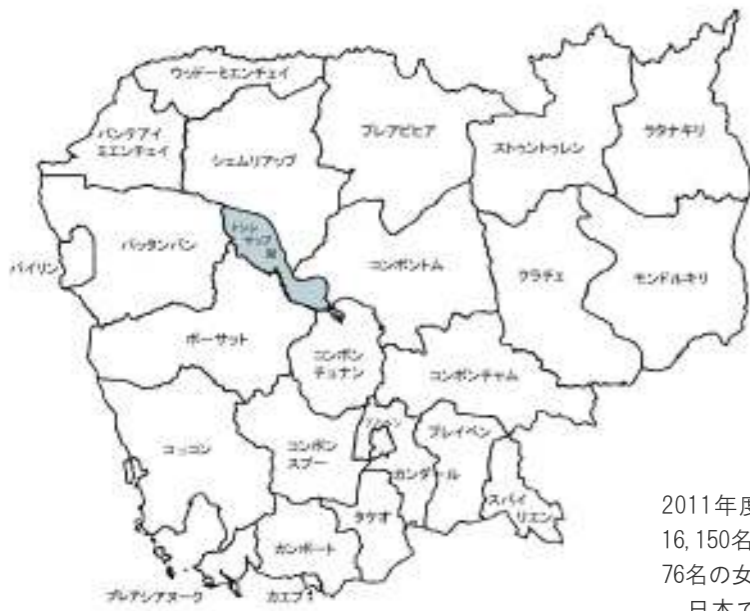
お母さんが子どものそばで機を織る。カンボジア伝統工芸のかすり織りは、そんな暮らしを支えてきました。戦争で失われたこの伝統を研修センターで、そして村を回って教え、生活向上につなげています。また、織物製品をカンボジアと日本で販売し、収益を事業に役立てています。

➤P4

幼い難民を考える会は、幼い子どもたちと女性のために活動しています。

おもな活動

私たちの活動地域



2011年度は、カンボジアでは387カ所の保育所・幼稚園・小学校の、16,150名の子どもと592名の先生を対象に保育支援を行いました。また、76名の女性を対象に織物の技術指導を行いました。
日本では、30カ所の避難所・仮設の保育所・幼稚園・一時預かり所などの、416名の子どもと96名の先生を対象に保育支援を行いました。



東北の保育を支援し、 家族の生活再建につなげる (東日本大震災被災地支援事業)

大災害で暮らしが一変したなか、大きなストレスを抱える幼い子どもたちが、安心して過ごせる居場所づくりを支援しています。保護者・保育者の生活再建の一助にもなります。

➤P5

支援の輪を広げる活動

私たちの支援活動に対する理解と共感を獲得するため、活動報告会、織物販売会、募金活動などを行っています。収益は、活動に還元しています。

➤P6

保育事業



© 小林 正典

2011年度は・・・

- ✔ 私たちが開設した農村の保育所で自主運営が進展
- ✔ 新しいスタイルの幼稚園をオープン
- ✔ 公立幼稚園への保育者研修・教材配布を継続して実施

農村で保育所を運営

1991年から行っている農村の保育活動では、地域の人たちによる自主運営を目指しています。

2011年度は、卒園生が有資格の先生となり、子どもたちに教え始めています。

給食費をまかなうための米作りも前年を上回る収穫高で、魚の養殖も順調に運びました。さらに、村人に対する小規模貸付の利子収入も増加。完全自立への道のりは長いですが、一步一步、着実に進めていきます。



半日保育の地域幼稚園をサポート

住民の手で運営するカンボジアの新しい保育のかたち「地域幼稚園」。1日3時間程度の簡易なものです。より多くの子どもたちに遊びながら学べる場所を提供できる取り組みとして、私たちは積極的に支援していくことに決めました。



2011年度に2カ所で園の開設を支援し、保育者の研修などを行っています。

スラムの保育所を継続支援

劣悪な生活環境のスラムで現地NGOが運営する保育所を、2003年から支援。現在は6カ所に協力しています。

教材提供、保育研修、給食費支援のかたわら自立できるシステムづくりと意識を促してきましたが、2011年度は保護者の協力が拡大し、給食費がほぼまかなえるようになりました。



公立幼稚園の質の向上に協力

カンボジアの公立幼稚園では、先生の経験や設備が不足しています。私たちは政府とともにこの課題解決に取り組み、保育者研修と教材配布を全国規模で行っています。

2011年度は、1州で全幼稚園の保育者を対象に研修会を開催し、教材を配布。5州で研修のフォローアップを行いました。

2011年度は、1州で全幼稚園の保育者を対象に研修会を開催し、教材を配布。5州で研修のフォローアップを行いました。

織物事業



2011年度は・・・

- ✔ カンボジア本来の草木染めによる製品づくりに切り替え
- ✔ 織物技術研修内容を強化・刷新
- ✔ 研修で習得した新しい模様を採用する織り手が増加

研修と生産を行う織物研修センター

1993年に始めた農村女性への織物技術研修は、場所の移転を経て2003年から織物研修センターで行っています。

2011年度は、これまでのプログラムを見直し、経験者対象の3カ月コースに刷新。人気の高い布製品を作る技術が身につき、収入向上に貢献しています。

研修センターでは草木染めの製品づくりも始めましたが、生産体制の確立に時間がかかり、販売収入が伸び悩みました。

村におもむく巡回研修

織物をしている女性たちの要望に応え、農村を回って、新しい模様などを学ぶ短期コースのワークショップを開いています。

2011年度は、3つの村で開催し、計60名が参加。模様の作り方を習得した修了生たちは、積極的に緋織りに取り組み、収入が伸びています。

女性の収入を少しでも増やすため、販売にも力を入れています。



東日本大震災被災地支援事業

2011年度は・・・

- ✓ 保育士が選んだ遊具・教材を寄贈
- ✓ 地域に不可欠な保育の場の運営を支援
- ✓ 就学する子どもに支援金を支給



緊急・復興時の保育支援経験を活かし、大災害の爪あとのなかで子どもたちのために頑張る人びとを応援しています。

相手の声を聴き、保育士の助言を得ながら、状況、ニーズ、そして子どもの心の状態に配慮した支援内容を考え、実践。避難所、仮の場で再開した保育所・幼稚園などに、遊具・教材や運営費支援、保育士派遣などを行ってきました。

安心して子どもを預けられる場所の存在は、暮らしの再建の一助にもなります。そして地域の活力再生につながると考え、取り組んでいます。



子どもたちは、ボランティアの協力による手づくり遊具が大好き



子どもたち、女性のための支援の輪を広げる活動

● みんなで布チョッキン

カンボジアの子どもたちが遊ぶ人形・ボール作りをお手伝いいただく「みんなで布チョッキン」。2011年度は、延べ1,235名の方にご協力いただき、人形713体、ボール2,612個分の布をカンボジアに送りました。

※「幼い難民を考える会 あいち」の活動を含んでいます。



● 物品販売

・カンボジアの手織り布製品
ショップ「ラタナ」での販売のほか、百貨店などでの委託販売、通信販売、買取販売を行っています。

・オリジナルカレンダー
写真家・小林正典氏の協力を得て、カレンダー「カンボジアの子どもたち」（1,000円）を毎年販売しています。

● イベント等

チャリティコンサート（4月：百観音明治寺、12月：CANTATE DOMINO）、バザーグループによるチャリティバザー（全8回）などに協力しました。

みんなで布チョッキン

2011年度・全24 グループ ※個人を除く

- 丸紅株式会社（東京）
- 三菱商事株式会社（東京）
- 浄見寺（神奈川県）
- 聖心女子大学SHRET芽生えプロジェクト（東京）
- 全日本自治労働組合群馬県本部青年女性部（群馬）
- 教覚寺（静岡）
- ゴールドマン・サックス証券株式会社（東京）
- 豊田市立西保見小学校（愛知）
- 椋山女学園高等学校（愛知）
- 椋山女学園大学（愛知）
- 名古屋外国語大学（愛知）
- 豊田広域ローターアクトクラブ（愛知）
- 公益財団法人あすて
ボランティアグループあかんで（愛知）
- 全日本自治労働組合福岡県本部ユース部（福岡）
- へきなん保育園（愛知）
- 全日本自治労働組合神奈川県本部（神奈川県）
- 株式会社損害保険ジャパンちきゅうくらぶ（東京）
- 横浜雙葉高等学校（神奈川県）
- 精霊高等学校（愛知）
- 一宮ローターアクトクラブ（愛知）
- 慶應義塾高等学校（東京）
- 特定非営利活動法WE21ジャパン旭（神奈川県）
- MS&ADゆにぞんスマイルクラブ（東京）
- 豊田市立朝日小学校（愛知）

手織り布製品販売

2011年度・全17件

出張販売

- 明治寺花まつりコンサート（東京）
- 2011年度CYR定例総会（東京）
- フィリップ モリス ジャパン株式会社（東京）
- ホテルアイビス（東京）
- 高島屋<日本橋>（東京）
- 株式会社リコー（東京）
- FITチャリティ・ラン2011（東京）
- 「復興市」三菱商事株式会社（東京）

他

買取販売

- 秋田県国際交流をすすめる女性の会「わびえ」
- 有限会社アイ・エンタープライズ

他

愛知支部「幼い難民を考える会 あいち」の活動

- 「みんなで布チョッキン」開催（15回）
- 東日本大震災被災地支援活動教材・遊具作り
- カンボジア手織り布製品販売に協力
- 私たちの活動や国際協力に対する関心の喚起

それぞれの地域での自立を目指して

私たちのカンボジアでの活動方針は、同国の人たちの手による活動の継承・発展がスムーズに進むよう、物質的な援助だけでなく、人材の育成、ノウハウの移転を図ることです。

2012年度はその仕組みづくりをさらに推し進め、いくつかの事業をカンボジアの人たちに引き継いでいく予定です。そして新しい力を、より多くの子どもたち、女性のために活用できるよう、準備を始めます。

被災地の活動でも、地域の人々の力が十分に発揮できるようなかたちで、支援を続けます。

カンボジア保育事業

カンボジアの人たちが主体となって、保育全体をレベルアップできるように

◆農村の保育所運営

小規模貸付の運用や、米・野菜づくり、魚の養殖などを安定して行い、自主運営を拡大するとともに、保育の質を高める取り組みを恒常的に行っていきます。

◆地域幼稚園支援

地域住民の手による運営を軌道に乗せる仕組みを考えながら、複数展開できるよう、簡易保育のモデルを構築します。

◆公立幼稚園支援

支援が届きにくい僻地にある州で全幼稚園を対象に保育者研修と教材配布を行います。以前に研修を行った4州ではその後の進捗を調査します。

◆スラムの保育所支援

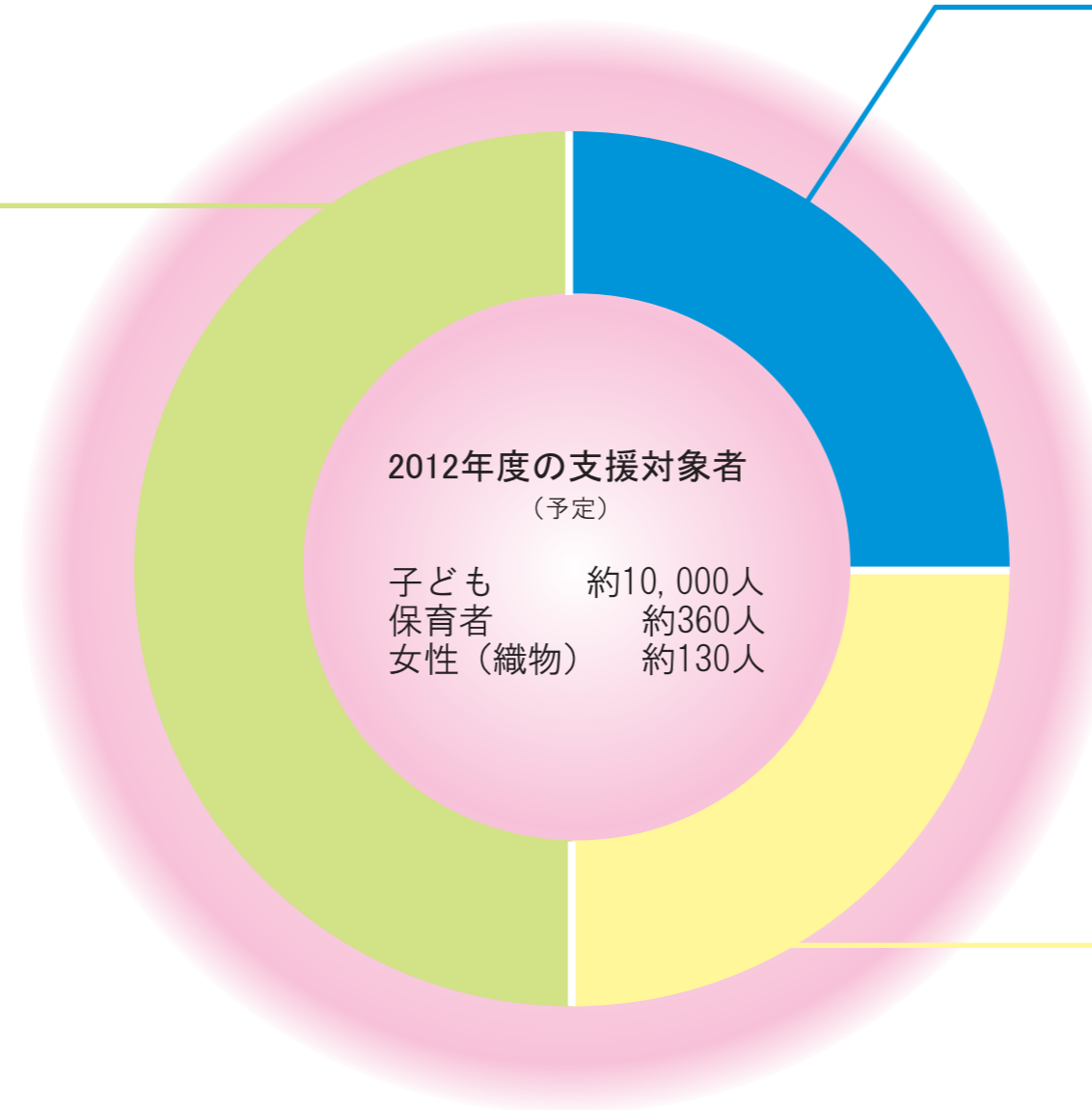
現地NGOが運営する6カ所の保育所で、栄養食（豆乳・卵）を支給します。運営費の支援も一部、引き続き行う予定です。

現地NGO「CCDO」の保育所支援を開始

CCDOは2010年に11月設立された、スラムの子どもと家庭のための活動を行うNGOです。保育所を中心とした地域センターを運営し、保育、保護者の職業訓練、地域住民の就労支援などに取り組んでいます。

私たちはCCDOの考えに共感し、またその必要性を痛感し、支援を開始します。（保育の研修、保育教材・備品、保育者給与、給食費など）

*CCDO=Children and Community Development Organization



カンボジア織物事業

女性の生活向上のため、研修の実効性と製品価値の増大を図る

◆織物研修センター

草木染めの研修を行って技術を定着させるとともに、ピダン[※]の研修に力を入れ、高度な技術の習得を支援します。 ※カンボジア独自の芸術性の高い緋給巻タペストリー

◆巡回研修

新しい柄を学ぶ5日間のワークショップを6回開催し、織り仕事の幅を広げる支援をします。

◆藍染め研修

すべての色を草木染めで表現するため、色落ちしやすい藍染めに対し、専門家の招聘などにより課題解決の道を探ります。

◆製品づくり

製品の販売収益で研修経費をまかなうことを長期目標に、品質管理の徹底と品揃えの拡大に取り組みます。

東日本大震災被災地支援事業

安心・安全な子どもの居場所が地域の再生につながる

ゼロからの再出発に決然と取り組む幼稚園・保育園のなかで、存続に私たちの手がいましばらく必要のところを、引き続き支えていきます。いずれも地域での必要性、子ども・保育への情熱が高い保育施設で、その存続は就業支援、ひいては地域再生の一助になると考えます。

- 保育活動の運営支援
- 保育教材・遊具の支援
- 就学支援金の支給

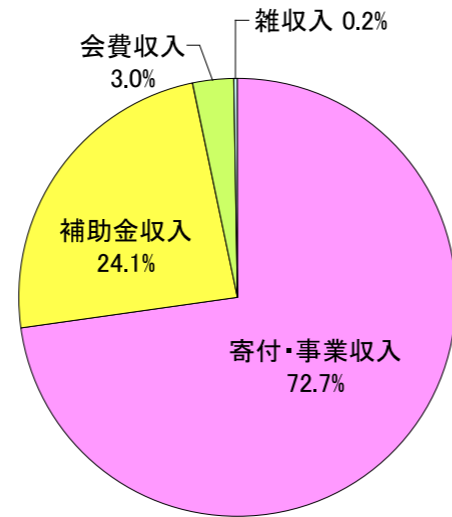
■ 収支決算書・予算書 (単位:円)

I 収入 科目	自 2011年4月 1日 至 2012年3月31日	自 2012年4月 1日 至 2013年3月31日
	2011年度決算額	2012年度予算額
1 期初活動準備金	17,016,720	36,535,761
2 会費収入		
会費収入	3,367,000	3,500,000
賛助会費収入	109,000	0
会費収入合計	3,476,000	3,500,000
3 寄付・事業収入		
寄付・募金収入	74,181,883	40,000,000
事業収入		
織物販売収入	4,381,302	6,400,000
ワークショップ収入	2,411,588	3,000,000
カンボジア事務所事業収入	2,756,340	3,000,000
事業収入計	9,549,230	12,400,000
寄付・事業収入合計	83,731,113	52,400,000
4 補助金収入		
補助金収入合計	27,756,720	26,000,000
5 雑収入 (換算差益含む)		
雑収入合計	217,207	200,000
6 特別会計繰入金		
特別会計繰入金合計	0	0
当期収入合計	115,181,040	82,100,000
合計	132,197,760	118,635,761

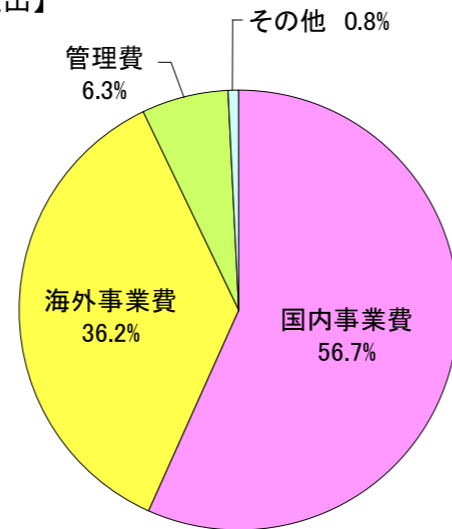
II 支出 科目	2011年度決算額	2012年度予算額
1 事業費		
国内事業費		
震災関連事業費	17,653,658	30,820,000
国際理解事業費	696,562	660,000
広報費	959,781	3,640,000
織物等関係費	5,496,465	2,620,000
事業旅費通信費	509,863	650,000
国内事業人件費	28,946,206	30,400,000
国内事業費計	54,262,535	68,790,000
海外事業費		
保育事業費	5,836,195	6,170,000
織物事業費	929,615	7,520,000
旅費通信費等	2,329,532	2,160,000
海外事業人件費	17,298,329	15,940,000
現地職員保母等人件費	7,140,631	7,300,000
海外事業管理費	578,476	850,000
減価償却費	507,949	510,000
海外事業費計	34,620,727	40,450,000
事業費合計	88,883,262	109,240,000
2 管理費		
旅費交通費	274,480	440,000
会議・渉外費	201,932	220,000
通信運搬費	401,215	410,000
備品消耗品費	1,472,598	1,260,000
賃借料等	2,776,820	2,890,000
銀行他手数料・雑費	788,635	1,000,000
減価償却費	105,000	110,000
管理費合計	6,020,680	6,330,000
3 租税公課		
租税公課合計	235,200	300,000
4 補助金返還金		
補助金返還金合計	510,520	500,000
5 雑損失		
雑損失合計	12,337	200,000
当期支出合計	95,661,999	116,570,000
次期活動準備金	36,535,761	2,065,761
合計	132,197,760	118,635,761

決算レート: \$1=83.19円 \$1=4,000リエル 2012年度予算レート: \$1=80円 \$1=4,000リエル (2012年3月31日 三菱東京UFJ銀行TTS)

【収入】



【支出】



■ 収支決算書・予算書 補足説明

2011年度決算書

- 震災後の募金活動で約5,750万円の寄付・補助金が入金され、被災地での保育支援に役立てました。
- 震災によりカンボジアへの支援金が減り厳しい組織運営となりました。一方で長年の活動が評価され、高額寄付が入金されたため海外事業は計画通りに実施しました。
- 織物販売は、長らく経済の低迷と製作者確保が難しく収入が減少しました。

2012年度予算書

- 被災地での保育支援活動を続けるため資金集めに努めます。
- カンボジアの事業資金が減ると予想されます。収入状況により後期の事業計画・予算の見直しを検討します。
- 広報強化により支援者を増やし、経費を削減して組織の財政改善に取り組みます。

■ 貸借対照表 (単位:円)

科目	金額
I 資産の部	
1 流動資産	
現金	2,043
郵便振替	672,375
通常貯金	175,088
普通預金	34,348,173
定期預金	6,313,127
貯蔵品	34,670
前渡金	591,480
仮払金	894,226
仮払税金	7,217
現地事業貸付金	790,305
特別会計預金	49,000,000
敷金	828,571
流動資産合計	93,657,275
2 固定資産	
車両運搬具	5,930,212
無形固定資産	525,000
固定資産合計	6,455,212
資産合計	100,112,487

科目	金額
II 負債の部	
1 流動負債	
未払金	307,099
前受金	470,000
預り金	2,011,604
流動負債合計	2,788,703
2 固定負債	
退職給与引当金	6,313,127
減価償却引当金	5,474,896
固定負債合計	11,788,023
負債合計	14,576,726
III 前期繰越正味財産	66,016,720
当期正味財産増減額	19,519,041
正味財産合計	85,535,761
負債及び正味財産合計	100,112,487

換算レート: \$1=83.19円 (2012年3月31日 三菱東京UFJ銀行TTS) \$1=4,000リエル

■ 監査報告書



会員

(2012年3月末現在)

- 会員： 405名
 - 正会員 360名
 - 一般会員： 339名
 - 学生会員： 15名
 - 団体会員： 6団体
 - 賛助会員 45名
 - ※2012年6月より、賛助会員の制度は廃止いたします。
- 寄付者： 2,018名

2011年度 補助金収入内訳

(50音順)

- 国際ボランティア貯金 4,538,000円
- 全日本自治体労働組合関東甲地区連絡協議会 1,700,000円
- 全日本自治体労働組合福岡県本部 1,000,000円
- 特定非営利活動法人アユース仏教国際協力ネットワーク 500,000円
- 日本労働組合総連合会「連合・愛のカンパ」 1,500,000円
- フェリシモ基金事務局 720,000円
- Church World Service 17,798,720円

2011年度 寄付者

(10万円以上、50音順) ※個人を除く

- Association FEMMES d' EUROPE
- MS&D ゆにぞんスマイルクラブ
- えん21
- 幼い難民を考える会 あいち
- 幼い難民を考える会チャリティ・バザーグループ
- 花王株式会社/花王ハートポケット倶楽部
- カトリック麻布教会
- ニューインターナショナルスクールオブジャパン
- 株式会社一五不動産情報サービス
- 株式会社大田祐子デザインオフィス
- 株式会社クリアストーン
- 株式会社シンサイ カトー
- 株式会社ニッセン
- 株式会社日立製作所
- 株式会社リコー
- CANTATE DOMINO
- グループ五つの星
- Goldman Sachs & Co.
- ゴールドマン・サックス証券株式会社
- 公益財団法人あすて/あすてボランティア
- 公益財団法人毎日新聞大阪社会事業団
- シルヴァニア チェリスティン
- 枝光学園幼稚園
- 宗教法人孝道山本佛殿
- 宗教法人専念寺
- 聖心女子大学同窓会宮代会
- 全国友の会
- 千葉友の会
- 東京海上日動あんしん生命保険株式会社
- 東南アジア保育支援実行委員会
- 特定非営利活動法人アユース仏教国際協力ネットワーク
- 特定非営利活動法人国際協力NGOセンター
- 特定非営利活動法人WE21ジャパン厚木
- 特定非営利活動法人WE21ジャパンかながわ
- 特定非営利活動法人WE21ジャパン港南
- 特定非営利活動法人WE21ジャパンざま
- ドシェーン会7回生有志
- 花まつりコンサート実行委員会
- FITチャリティ・ラン2011
- フィリップ モリス ジャパン株式会社
- フェリシモ基金事務局
- 三菱商事株式会社
- 丸紅株式会社

2011年度 物品寄贈

- 株式会社リコー (事務用品)



多様なカンボジアの織物

カンボジア織物の美しさは世界に知られています。それは、人々の手へ、目より先取りで伝えられた貴重な文化です。代表的な織物は、大きく3種類あります。絹織物の「カンボジアのシルク」は、手織、機織、日除けなどに活用され、人々の生活に欠かせません。次に「カンボジアのシルク」は、3枚の布を縫って、模様をつけてあげた織物を指します。これは、お寺に行く時や結婚式などの儀式に用いられています。最後に、お寺の天井、仏壇の上に飾る大巻、「ピダン」世界でも稀なこの織物には、「ナード」「黒」「赤」「黄」など様々な動物の模様が、人々の半袖が表現されています。

女性の経済的自立と伝統文化の価値

国定非営利法人「幼い難民を救える会」(以下、NPO)は、カンボジアの女性たちの経済的自立と、戦争で失われた伝統文化の復興を目的として、織物の技術指導を行っています。女性たちは、専業主婦として生活を送ることで、家族の生活を支えています。

1980年、内戦により崩壊したカンボジアの子どもたちが、決して他人様しい環境と必要最低限のことで暮らすようにとの願いから、NPOの活動は始まりました。難民キャンプの中で食糧を配り、そのほかでは、保護者たちが帰国を望んで、行ける荷物などの整理指導も行っていました。

織物は、カンボジアの伝統文化にも関わらず、20年ほど内戦で技術を持った女性が大勢亡くなってしまった。失われた文化をもう一度復興し、貴重な技術も後世に残したい。織物をすることで女性たちが自信を回復し、貧困から立ち上がるきっかけを作りたいと考えました。織物になった人たちは、自分で技術を学ぶことができるだけでなく、収入を得ることができ、生活が安定します。女性が地域の文化に誇り、手に技術を誇りにして再び生きる力を見出せるようになることが大切でした。物を作り出す喜びは、人間の尊厳に繋がります。

織物研修センターでの技術指導

1992年に難民キャンプは閉鎖されましたが、カンボジアの社会経済状況が安定するにつれ、難民を出さない社会作りにつながることを、NPOは1991年からカンボジア国内で活動を始めました。現在は、首都プノンペンから約60kmのタラケルで、織物研修センターを開設しています。10名の指導員がおり、特別女性たちが1年間じっくりと研修や実習の指導を受け、指導員指導を受けています。今年以上技術を習得し、シルクとコットンの絹や麻、色使いの研習など4つのコースを短期で行っています。習得したカンボジア人の女性たち、彼らから織物を習い、指導員として技術を指導して研修の先生に就任している男性です。これまで研修を受けた女性たちは30代後半から50代ですが、50代の

専業主婦を支える女性たち

専業主婦を支える女性たちで5人のインタビューをしました。まずはシン・ニエンさん(41)。「出入りの仕事もしながら働いています。収入は、家や物の修繕の費用に使えますのでありがたいです。」ニエンさんは、お母さんと姉の3人暮らしです。カンボジアでは、内戦の影響で女性が専業主婦の子どもが少なくありません。専業主婦しながら家族を支えています。

シン・サランさん(47)は、7年前に研修センターを卒業して、最初は、仏教の僧侶の経典を縫っていました。2年前に結婚して、お母さんが亡くなりましたが、「家で、子どもを育てながら織物で暮らすので、これからは縫物で稼いでいきたいです。」

また、トップ・ナムさん(29)は、2008年に1人1人で開業されたファッションデザイナーのNPOに就職して縫物師の経験が豊富です。チキスタイルの部門で活躍しています。

東京でのカンボジア織物販売

こうした素晴らしい織物は、カンボジアだけでなく、日本でも販売して収益を研修に役立てています。NPOの事務局は東京の文芸区にあり、会館で「カンボジア手織のシルクカンボジア」を提供しています。

カンボジア 東京での織物販売

日時 2012年6/1(金)～2(土)11:00～17:00

場所 南青山駅山 正光院(南青山駅南側向かい)

内容 世界最良の絹織物カンボジアの伝統文化の魅力を伝える展示販売

協賛 NPO法人 幼い難民を救える会(CVO)
〒112-0013 東京都港区南青山1-10-4 海山ビル3F
電話 03-3943-6971 FAX 03-3943-6973
Email info@cvo.or.jp URL http://www.cvo.or.jp/

その他

- 東京新聞
- 福島民報
- 毎日新聞
- カトリック新聞
- 河北新報
- 読売新聞
- 北羽新報社
- 信濃毎日新聞
- ※合計10のメディアで紹介されました

毎日新聞 2011年12月16日

カンボジアの子ども支援



NPOが12年阪カンボジア支援
カンボジアの子ども1000人の販売を
NPOが12年阪カンボジア支援
カンボジアの子ども1000人の販売を
NPOが12年阪カンボジア支援
カンボジアの子ども1000人の販売を

Children, Our Future

今日の子どもの幸せが、明日の平和な世界へつながります。

1980年、内戦により難民となったカンボジアの子どもたちが、タイ国境の難民キャンプの恵まれない環境のなかで、少しでも人間らしい環境と必要な配慮のもとで暮らせるようにとの願いから、幼い難民を考える会（CYR）の活動は始まりました。

難民キャンプ閉鎖後は、復興をめざすカンボジアの農村で、子どもたちが安心して暮らせる環境づくりと女性の自立を支援する活動に取り組んでいます。

会の名前を「難民の子ども」ではなく「幼い難民」としたのは、子どもという独立した人格を尊重する立場から子どもたちの成長が守られて初めて、祖国を逃れてきた人たちの、あるいは、その国の自立の問題に結びつくと考えたからです。

また、「考える会」としたのは、助けるという意識がしばしば相手の自立を侵したり、相手を管理する態勢に陥りがちであることを認識し、難民問題をいろいろな側面から考えていきたいという会の基本姿勢に根ざしています。

私たちはこれからも、さまざまな理由により厳しい境遇に置かれている子どもたちの健全な成長を支援し、その保護者たちが人間らしい生活環境のもと自立できることをめざしてひとつひとつの小さな積み重ねを大切にしていきます。そのことが、難民を生み出さない、明日の大きな平和を創る力となることを、信じています。

役員

2012年3月末現在

代表理事	深水 正勝	理事	高木 正彦	松岡 玲子	監事	大川 晴一郎
副代表理事	交野 政博		田中 周子	山田 暢子		鈴木 雅博
			深津 高子	吉川 健治		

職員

2012年3月末現在

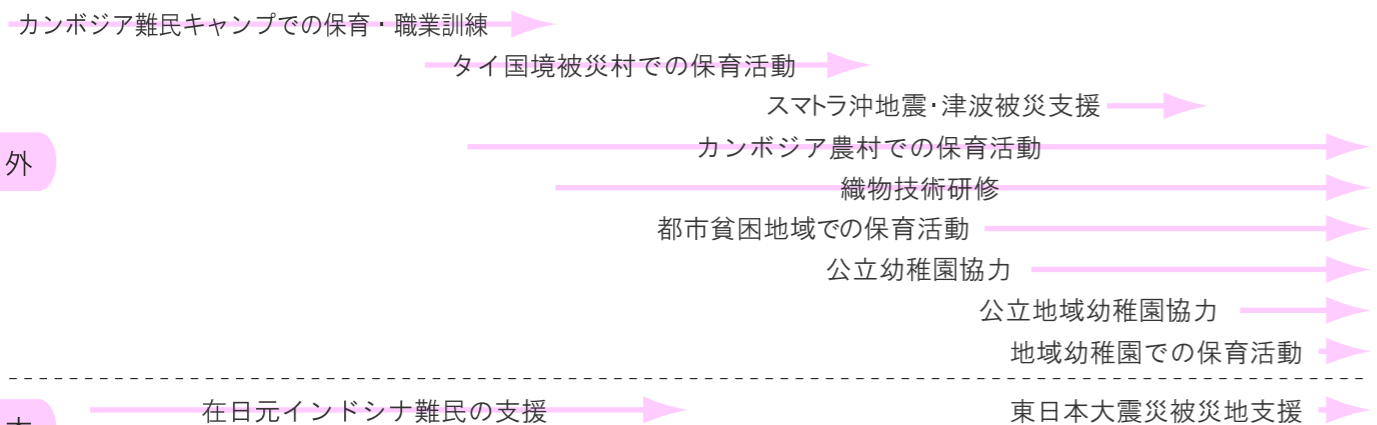
東京事務局 8名（事務局長 峯村 里香）
カンボジア事務所 15名（うち、日本人3名）

アドバイザー

上田 広美（東京外国語大学准教授）
岡田 知子（東京外国語大学准教授）

活動履歴

1980 . . . '85 . . . '90 . . . '95 . . . '00 . . . '05 . . . '10 '11 '12



海外

日本



特定非営利活動法人
幼い難民を考える会
代表理事 深水 正勝

昨年一年は、私たち日本人にとって確かに、これまでに例を見ない年だったと思います。あの津波が、町や村に覆いかぶさるように襲ってくる様子は、思い出しても恐ろしくなります。

被災地の子どもたちのことを思い、阪神淡路大震災の体験に基づいて、私たちが迅速に活動を始めることができたことは、それを支援してくださった国内外のみなさまのおかげでした。あらためて深く感謝をいたします。

それにつけても、あのような大災害の時に、避難所などで長期にわたって生活を余儀なくされる人びと、特に小さい子どもたちのために、彼らだけの場所、世話をする人などが、ほとんど欠けていたことがよくわかりました。ぜひ行政にも働きかけていかなければならないことだと思います。厳しい状況に置かれた子どもたちは、カンボジアでも見守り続ける必要があります。どうぞこれからもよろしくお願いします。



カンボジア、カンダール州ローコンバオ保育所で。



宮城県東松島市のびる幼稚園。寄贈のすべり台で遊ぶ園児たち。

© 小林 正典